



山田邦博顧問

土木業界で、育児をしながらキャリアアップも目指すには何が課題となっているのでしょうか？ また、どのような支援・体制があれば生き活きと輝きながら目標を持って働き続けることができるのでしょうか？ 今回は、子育て真っ只中の5名の会員にお集まりいただき、ママさん技術者のキャリア形成について、山田顧問を交えて一緒に考えました。その様子を少しでも早く、皆さんにお伝えできるよう、「輪：かわら版」としてお届けします。

(報告:深瀬尚子 岡本茉莉)



村上育子企画広報局長
(司会)



蝦名仁美さん
専門工事/東日本



外山喜望さん
ゼネコン/東日本



梨本理恵子さん
専門工事/西日本



沼田直子さん
地方自治体/東日本



前川利枝さん
コンサルタント/中部

(村上) それでは早速、座談会を始めます。まずは皆さんの職場や周囲におけるロールモデルの有無について教えてください。

(沼田) ワーキングマザーとしては私は2人目です。先に入社した先輩は私のメンターになってくれています。職場に女性は30名ほどいますが、そのうち5名ほどが育休中です。また子育て中の女性はなるべく違うテーブルに分散するように配属されています。

(外山) ロールモデルとなる先輩はたくさんいます。子育て中は内勤になる方が多く、現場に出ている方はわずかです。設備の関係もあり、1つの職場に複数の女性社員が配属されることがよくあります。

(前川) ロールモデルとなっている女性は事務職に数名います。最近は過去に退職された方を再雇用するというケースも増えています。再雇用してみたら即戦力になる！ということがわかり、会社も制度を見直すようです。

「輪」かわら版1号

(村上) 産休・育休中や職場復帰した際に苦労した点がありますか？

(前川) 保育園のバスで子どもが帰ってくるので、仕事を上げる時間は1分を争いました。時短での勤務終了時刻間際に指示や電話、打ち合せなどが入る時があり、「みんなもって『分刻みの時間管理』を意識してほしい」と思いました。

(一同) 分刻み！ わかる！

(蝦名) 会社の制度が整っていても、使わない人は制度の内容を知りません。時短勤務(以下「時短」)を使っている人は使っていない人と同じ給料をもらっていると思われていたり…。管理職研修などで制度に対する理解を徹底してほしいです。

(村上) 制度と言えば、最近はやりの“テレワーク”を利用されたことはありますか？

(前川) 制度化の動きはあるものの、セキュリティの関

係で難しいようです。

(蝦名)弊社では会社のPCを家から遠隔操作します。データ保存は自宅のPCにはできないようなセキュリティ対策がされた上で実用化されています。しかし子どもが病気の時は在宅での仕事はできません。

(外山)妊娠中の体調不良の際、満員電車に乗らなくて良いのは助かると思います。

(梨本)看病をしながら仕事をする人もいますが、看病に専念したい人もいます。テレワークでは自宅で一人で仕事をするので、入社後すぐの方は利用できないでしょうし、仕事内容にもよります。テレワークをしたい人が選択できるようになると良いと思います。



(村上)職場・家庭などの周囲の理解はいかがでしたか？

(蝦名)夫は同業者です。現場監督をしてお仕事を抜けられないため、子どもの急な発熱などへの対応は、私がやるしかありませんでした。また、時短を使うことで、残業できないことが周囲に認知されるので、定時で帰りやすくなります。

(前川)夫の親に見てもらうこともあります。同世代の事務職の方も子どもの病気で休んでいたの、私も休みを取りやすかったです。

(梨本)自宅の近くに保育園がなかった(認可外でさえも)ため、引っ越しました。後輩は復職する際に、保育園が見つからず、そこではじめて在宅勤務の制度ができました。

(一同)引っ越し！？ すごい…。

(村上)職場復帰の最大の課題は子どもを預けられるかどうか、ですよね…。ほかにも仕事と家庭・子育ての両立における苦労と工夫についてお話しください。

(沼田)毎日食事を作ることが大変です。夜に朝食も作っておき、朝に手間をかけずに食べられるようにしました。

(蝦名)食事は夜、子が寝た後に作っています。乳幼児の頃から早寝早起きを習慣づけていたので、今でも時間になれば素直に寝てくれます。おかげで夜に家事や自分の時間を作ることができました。

(前川)主に義父母に協力してもらいました。保護者が運営する学童保育は役員をしなければならず、負担が増えたため、途中でやめました。

(沼田)NPOが運営している学童保育は料金が高くなりますが、病院に連れて行ってくれたり、習い事の送迎もしてくれるので良かったです。私立の小学校に編入させてからは放課後に系列のスクールで習い事をするほか、定刻にバスで帰って来るようになったので生活が落ち着きました。夫が広報の部署に異動になってからは平日休みが多くなり、子どもの看病をしてもらえるようになりました。

(村上)子育てしながらキャリアアップするには何が重要だと思いますか？

(蝦名)女性が子育てしながら仕事も続けるのはわがままではなく、不足している労働力を維持するためのものだというイメージを、周囲の方に持ってほしいです。

(梨本)残業をしていると、「お迎えに行かないと子どもがかわいそうだ」と言われます。夫が料理をして子どもの面倒を見ていると伝えると驚かれます。私たちのしていることが早く普通のことになって欲しいです。

(外山)2人目の妊娠中や出産後に1人目を保育園に預けられる環境があれば良かったです。仕事の有無に関わらず必要な分だけ保育園を使えることが理想だと思います。長時間労働をしている上司もおり、子育て中に同じ働き方をするのは難しそうだとキャリアアップについて尻込みしてしまう後輩もいます。働き方を工夫している方の事例を水平展開すれば、尻込みする気持ちが少し楽になるのではないかと思います。

(前川)育児と仕事のバランスを自分で決められるようになることが必要です。また「何を何か月やったか」の「経験」ではなく、「性能」重視で評価して欲しいです。アスファルトは最近そのような評価基準が用いられています。

(一同)アスファルト！ 笑。

(顧問)発注者側も考えなければいけない問題です。現在はいくつかの業務(調査、工務、管理など)をしな

がキャリアアップする仕組みが主流ですが、それ以外の道も選べるようにしたい。色々なルートでキャリアアップできる仕組みを作りたいですね。今日この場で皆さんの話を聞いて、女性技術者の課題は建設業の中だけではなく、保育園や学校にも及ぶということがよくわかりました。国土交通省だけでなく、他の省庁も交えて話し合うべき課題ですね。

(村上)それでは最後に、これから出産や育児を迎える人や、両立を行う人たちへアドバイスをお願いします。今日の座談会の感想も、合わせてお願いします。

(外山)妊娠したときから自分のことはつい後回しにしがちでした。自分を振り返る時間はとても大切だと思います。本日こういう形で自分を振り返ることができて、とてもありがたいです。

(梨本)会社に意見を上げていると、自分がわがままを言っているように思えてきます。しかし別の会社の人と話して、皆も同じことを思っているのだとわかり自信が持てました。

(蝦名)悩んでいるのは一人ではなく、同じ悩みを持った人が他にもいると知ってとても心強く感じています。また、環境を整えていくには自分が管理職にならなければいけないなど、強く思いました。プレッシャーは感じますが、ロールモデルとして今後がんばっていきたいです。

(沼田)何ごとにも先手を打っておくことをおすすめします。妊娠する前から周囲に妊娠を望んでいることを伝えておき、妊娠したら保育園探しを始めるなど、自分を苦しめないために、あらかじめ情報収集をして自分に合った生活をイメージして行動することが大切です。

(前川)自分の意見や考えが誰かの参考になるかもしれないなんて、今まで思いもしませんでした。本日の座談会に参加できて、今とても感激しています。これからももっと多様化が進んで、色々な方が楽しく働ける業界になれば良いと思います。

(村上)「子育てとの両立は大変ね」と男女とも言われる社会にしていきたいですね。最後に山田顧問から一言、お願いします。

(顧問)私と同年代の女性技術者の方々はバリバリのスーパーウーマンでしたが、「がんばらなければいけな

い！」と肩に力が入っているように見えました。今日みなさんのお話を伺っていると非常に自然体で、男性側からみても好感が持てるなど感じました。それでもまだまだこの業界には男女間に溝があります。この溝を埋めるにはお互いに信頼し理解することが必要です。私は部下によく「まずは相手を愛しなさい。」と言っています。取引先の人が好きであれば仕事が楽しくなるでしょう？ まずはそこからです。本日のお話を聞いて、自分の部署でできること、他の役所との連携が必要なことなどがよくわかりました。建設業としての特殊性を考えた上での男女平等というのはうちの省でしか考えられないことです。今後もこのような場で色々な話を聞かせてください。



全員で記念撮影(後列は座談会参加者、前列はスタッフ
左から、深瀬尚子/村上育子/青木治子/岡本茉莉)

山田顧問への突撃インタビュー！

深瀬編集長と岡本編集委員が山田顧問に突撃インタビュー！ 10の質問を投げかけました。今回はその一部をご紹介します。残りは「輪」63号(ごめんなさい！ 会員限定版です)でのお楽しみ！

【子どもの頃の「将来の夢」】

プロ野球選手か学校の先生。とにかく人の笑顔を見るのが好きな性分で、そういうことができる職業に就きたかったんでしょうね。

【土木の世界に入ったきっかけ】

父の仕事も土木。小さい頃から橋梁の現場などに一緒に行っていました。なので土木は小さな頃から身近に感じていました。

【過去の仕事で最も印象に残っている出来事】

堤防をつくったとき、誰でも堤防の上に登れるようにとスロープを付けたら、地元の方にとっても喜ばれたのを今でも覚えています。そういう意味では子どもの頃の夢は叶っていますね。

「輪」かわら版1号

2018年1月10日発行

一般社団法人 土木技術者女性の会

事務局 松本香澄(事務局長)

「輪」編集委員 深瀬尚子(編集長) 岡本茉莉(中部支部)

rin@womencivilengineers.com